大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金　報告書
Outcome report

計画名 Plan	ゴードン研究会議リグニンでの研究発表と国際交流
氏名 Name	山本　千莉
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	農学研究科　応用生命科学専攻　博士後期課程 3 年
渡航国 Country	アメリカ合衆国
渡航日程 Travel schedule	2024 年 7 月 11 日　～　2024 年 7 月 23 日

・ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
・写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
・各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
・日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本計画では、米国マサチューセッツ州イーストンに渡航し、ストーンヒル大学にて、2024 年 7 月 13 日～7 月 19 日にかけて開催されるゴードン研究会議（GRC）リグニン及び若手研究者を対象としたサテライト会議であるゴードン研究セミナー（GRS）リグニンに参加し、研究発表を行うとともに、海外共同研究者との研究打ち合わせ、ならびに、GRC 及び GRS で企画されているキャリア形成のための様々な交流イベントに参加することを計画した。
今回参加した GRC リグニンは植物細胞壁の主要成分であり、植物バイオテクノロジー研究の重要ターゲットであるリグニンに焦点を当てた GRC であり、様々な専門領域で活躍する世界各国の著名なリグニン研究者が集まり、約 1 週間かけて、寝食をともにしながら、植物バイオマス利用の分野横断的討論が行われた。また、GRC では若手研究者育成とダイバーシティ促進の為のセミナー（Power Hour）も企画されていた。一方、GRS は、若手研究者育成を主眼とするサテライト会議であり、研究発表を通した若手中心の闊達な研究討論と合わせて、キャリア形成をサポートする為の交流会やセミナー（Mentoring Lectures）など様々なイベントが行われた。研究発表としては、GRC において 1 件のポスター発表を、GRS において 1 件の招待口頭発表と 1 件のポスター発表を行なった。

成果 Outcome

GRS での研究発表について

GRS における招待口頭発表では、10 分の発表と 5 分の質疑応答の時間が設けられていた。英語での研究プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力の向上を目指し、渡航までの期間でスライドの作成及び発表練習を重ね、さらに、飛行機やバスでの移動時間や待ち時間中も発表練習を繰り返して当日の発表に臨んだ。初めての国際学会での口頭発表であったが、大きなミスもなく、ほぼ練習通りに発表することができた。質疑応答では、GRS の主な参加者である大学院生やポスドク研究員からの質問だけでなく、招待講演者やオーガナイザーの先生方からも直接質問をいただき、非常に有意義な討論を行うことができた。口頭発表をきっかけに研究に興味を持っていただけたため、その後のポスターセッションにおいても色んな方から追加で質問をいただき、議論を行うことができた。GRS での口頭発表及びポスター発表全体を通して、世界で研究に取り組んでいる同世代の若手研究者と積極的に交流し、独自のネットワークを作ることができた。

さらに、2 年後の GRS のオーガナイザーを務めることとなった。GRS 開催期間中に募集があり、立候補したところ立候補者が複数名いたため、選考が行われた。専門分野の異なるポスドクの Nicolò 博士（イタリア・ヴェネツィア大学）とペアを組み、2 分間のスピーチを行ない、GRS の参加者による投票の結果、次回の GRS オーガナイザーに選出された。GRC のオーガナイザーの先生方と連携を取りつつ、GRS での発表者や招待講演者の決定、プログラム作成及びイベントの企画などの運営を行う予定であり、非常に大きな挑戦であるが、今回の GRS のような若手研究者の成長やキャリア形成にとって重要な会議となるよう、精一杯取り組みたいと考えている。

GRC での研究発表について

GRS よりも多くの研究者が集まる GRC では、世界中の植物バイオマス研究のトップ研究者による最新の研究の口頭発表及び討論が行われたと同時に、報告者はポスター発表を行なった。約 1 週間開催される研究会議を前半と後半にわけ、2 日間にわたってポスターを掲示し続けることができたため、決められたポスターセッション時間以外の時間においても、他の参加者のポスターを見に行くことができ、自分のポスターについても説明することができた。GRC でのポスター発表では、若手研究者に加え多くの先生方からの質問や討論が増え、より深いディスカッションを行うとともに、世界のトップ研究者から直接フィードバックを受けることができ、さらなる課題にも気付くことができた。

GRC での口頭発表では、招待講演されている先生方の熱意やプレゼンテーション能力、発表内容に圧倒されつつも、世界の研究動向を把握し、当該分野の最新の知見の収集することを目指し、積極的に参加及び質問するよう努めた。専門分野の違う発表についても、疑問に思ったことやわからなかった点について、セッション間に設けられていたコーヒーブレイクやポスターセッションの時間を活用して質問することで、新たな知識や視点を得ることができた。積極的に質問及び交流したことがきっかけとなり、自分のポスター発表にも興味を持っていただき、様々な分野の先生方との更なるディスカッションを行うこともできた。

さらに、滞在期間中、Laura Bartley博士（米国・ワシントン州立大学）及びCJ Liu博士（米国・ブルックヘブン国立研究所）のグループとの打ち合わせも行なった。これまでは主にメールやオンラインでのミーティングやディスカッションを行っていたが、本渡航で直接研究内容についてより深く時間をかけて議論することができ、多くの貴重な助言もいただいた。

その他のイベント及びセミナーについて

本会議においては、研究発表に加え、キャリア形成をサポートする為の様々なイベントや若手研究者育成とダイバーシティ促進の為のセミナーも企画されていた。これらの機会を積極的に活用し、世界の研究者から、研究生活における様々な経験談や悩み、そして成功談を聞くことができ、感銘を受けたとともに、今後研究者として生きていく上で、今の自分に不足していることや考え方に気付き、多くのことを学ぶことができた。また、少し上の先輩である世界のポスドク研究員からも、セミナーやイベント以外の時間においてキャリアに関するたくさんの助言をいただき、自身のキャリア形成について多くのことを考える非常に有意義な時間となった。

セミナー(Power Hour)の様子。

食事の様子。毎食色んな研究者と研究の話やフリートークを楽しみました。

今後の展望 Prospects for the future

世界のトップ研究者が集う GRC 及び GRS での研究発表と、同世代の若手研究者を含む海外研究者たちとの交流は、今後の研究者としての成長及びキャリア形成にとって非常に重要な機会となった。今後も継続的に国際会議に参加しつつ、英語力の向上を図り続けたい。また、本渡航で得られた多くの知見を活かして、より完成度の高い博士論文を纏められるよう努めたい。博士号取得後は、海外でポスドク研究員として経験を詰むことを強く希望しているが、受け入れ研究室の選定だけでなく共同研究等、自身の研究の発展のために、本渡航を通して築いたネットワークを活用していきたい。また、２年後の GRS のオーガナイザーとして責任感を持って熱心に準備を進めていく。将来的にはアカデミアにおいて、世界の研究者と連携を取りつつ社会へ貢献できる研究者へと成長していきたい。